

中 浪江中だより

平成28年度 No.27
 平成28年
 7月8日(金)
 浪江中学校
 校長 笠井淳一

浪江中学校の教育目標～こんな生徒たちに・・・

- 【教育目標】
- 自ら探求的に学ぶ生徒
 - 礼儀正しく、節度ある生活をする生徒
 - 健康で、安全な生活をする生徒

【重点目標】 **自ら向上する生徒**

県陸上大会に出場しました 共通女子砲丸投げ・松本さん



7月6日(水)、福島県中学校陸上競技大会が福島市の「とうほう・みんなのスタジアム(あづま陸上競技場)」において開催されました。

本校からは、松本さん(3年)が共通女子砲丸投げに出場し

ました。雨模様で、少し肌寒いコンディションの下で、相双地区大会の記録を上回る記録を出すことはできませんでしたが、力一杯頑張りました。県大会に出場できたことは、貴重な経験になったことと思います。

ご家庭のご協力、大変ありがとうございました。

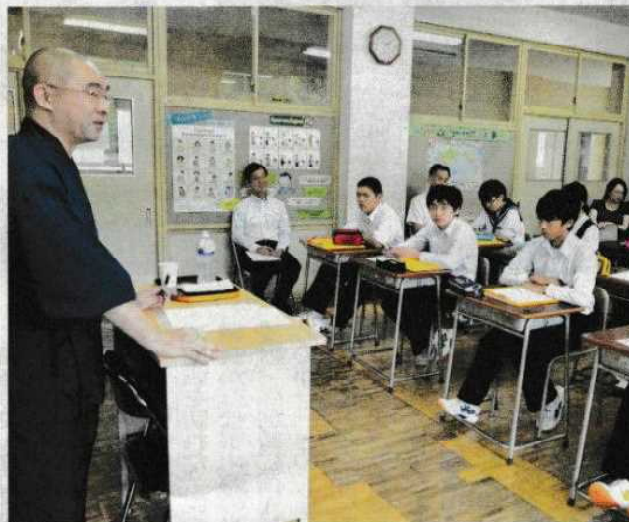
柴 義彰 様 講演会(新聞記事より)

「思いやり大切に」

遍照寺住職が 浪江中で講演

東京電力福島第一原発事故で全町避難を余儀なくされ、二本松市の旧針道小学校舎で学ぶ浪江町の浪江中で4日、全校生徒17人を対象にした「ふるさと浪江講演会」が開かれた。震災直後から同校の支援が続いている遍照寺(横浜市)の柴義彰住職が相手を思いやる心の大切さを語った。

同寺は、インターネットサイトで同校を知り、檀家から寄せられた支



柴住職をの講演に耳を傾ける生徒

援金で購入したノートパソコンや運動用品を贈るなどの活動をしている。柴住職はボランティアについて「自分のためではなく、人のためにすること。自分がしたことで相手が喜ぶこと」と語り、仏教の言葉「慈悲」や「自利利他」の意味を説明しながら「自分のことしか考えないと、どんどん悪い方向に向かう。自分心の考えは自分を傷つけるし、相手も傷つける」と述べた。「言葉は心を伝える道具。刃物と同じように、便利だが使い方次第では相手を傷つける」とも述べた。



柴住職の講演を聞く生徒

生徒、前向きな姿勢学ぶ 浪江中ふるさと講演会

浪江中の「ふるさと浪江講演会」は四日、二本松市針道の仮校舎で開かれ、講師に招かれた柴義彰遍照寺住職(横浜)が心持ちについて講演した。

自身が取り組んできた東日本大震災や熊本地震の被災地でのボランティア活動を紹介し、「ボランティアは人のためだけでなく自分の幸せのためにしてきた。自分がすることで人が笑顔になるのは本当によい」と語

さらに、高野山での修行時代は掃除が嫌だったが、楽しもうと心掛けたら掃除が楽になった。エピソードを明かし、「幸せは自分の心が決める。心の持ちようで嫌なことも楽しくなる」と話した。全校生十七人はメモを取りながら真剣に聞き入っていた。柴住職は平成二十四年から浪江中にパソコンやパッドミントン用具を贈るなどの支援を続けている。

↑ 【福島民友新聞】

← 【福島民報新聞】

【生徒の感想】

- ・ 柴さんのお話を聞いた後は、とても心がすっきりします。生き方についてとても深く考える時間にもなります。慈悲の心を忘れずに、人を幸せにできるような人間になりたいと思います。
- ・ 物事を辛くしている原因が、実は「嫌だと思っている心」だと気づきました。嫌なことを「楽しむ」ことを第一に考えて嫌なことから逃げずに、心の大きい人間になりたいと思いました。「自利利他」「慈悲」「感謝」の言葉を忘れず、自分も他の人も笑い合える人生にしていきたいと思います。